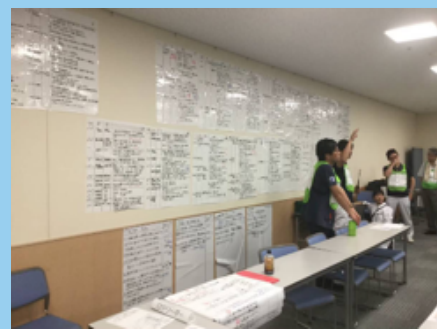


Code Orange

第65号

院内災害訓練 2019年9月11日

「The BCM (Business continuity management : 事業継続マネジメント) Again～PDCAサイクルを意識したBCPの見直し～」を訓練目標として9月11日に院内災害訓練が行われました。訓練は上町断層帯地震が発災した6時間後を想定して、各部署での事業継続のための動き方や今後の改善案について検証がなされました。現地指揮所では院内の被害状況・周辺病院や被災地域の状況などを考慮して、入院患者及び搬送患者の管理を行うために「職員管理」「病棟管理」「搬送調整」「ロジスティクス」「記録・連絡」の各部門に分かれて活動を行いました。今回、新たな取り組みとして、「災害時クラウド型情報システム (Information system in the Cloud to Assess a proper Strategy in the disaster : ICAS)」を使用した院内の状況把握 (職員及び患者情報、院内の被害状況が文字および画像にて表示が可能) を行いました。これにより、各部署の情報が迅速かつ詳細に把握ができたと思います。一方で、災害等が発生した際に事業継続を行うためには、訓練時のみでなく平時より準備を行う必要があります。PDCAサイクルを効率的に稼働していくために、今回の訓練を通して出てきた問題点や改善点を基に、災害マニュアルの改訂に取り組んでいきたいと思ひます。



令和元年度大規模地震時医療活動訓練 2019年9月7日

令和元年度大規模地震時医療活動訓練に梅村・西田医師、竹田・吉田看護師、岩崎・高尾業務調整員で参加しました。毎年内閣府が主催する訓練で、今年度は首都直下地震を想定して東京都を中心に関東地方で実施されました。参集拠点である談合坂サービスエリアに集合し、東京都の地域災害拠点中核病院のひとつである東邦大学医療センター大森病院へと派遣されました。当センターDMATは二手に分かれ、病院内に設置されたDMAT活動拠点本部の支援と病院間の患者搬送に従事しました。DMAT活動拠点本部では滋賀DMATの方々と協働し、派遣されてきたDMATの管理や医療対策拠点、院内災害対策本部との情報共有などの活動を行いました。患者搬送では実際にDMAT Carで病院間を移動し、無事に役割を全うすることができました。病院内外での実働訓練を通して、DMATとしての機能と活動の実効性を検証することができ、非常に実のある訓練となりました。今後も大阪急性期・総合医療センターのDMATとして活動の幅を広げるとともに、どのような役割にも対応できるよう総合力の向上に努めていきたいと思ひます。



大阪府基幹災害医療センター

<http://www.osaka-pqmc.com/>
令和年11月3日発行